

## 平成 29 年度 入学式 式辞

今年には桜の残る春です。桜花は日本人の心を映す花です。みなさんは今年の桜をどのような気持ちで眺めましたか。そして、明日からの熊本県立大学および本学大学院での日々を、どのようにしたい、と考えていますか。毎日は何もせずとも巡ってきますが、私たちの人生は一度きりであり、生命は永遠を保証されたものではない。従って、一日をできるだけ心豊かに、充実感の得られるように、大切に生きてほしい、今日の日を無事に生きることの有難さを心に刻んで向上心を蓄えてほしい、と願います。

六年前の、あの東日本大震災の記憶が消え去る前に、昨年四月、私たちの熊本も大震災を経験しました。爪痕は今も残り、みなさんの中にもその周囲にも、苦難の日々を過ごした方々がおられることでしょう。他の施設と同様に、熊本県立大学も、多くの地域住民の方々の避難所となり、不安と、疲労と、焦燥が渦を巻く過酷な日々を送りました。しかしながら、私をはじめ、恐らく多くの方々の実感として得たものは、人は支え合って生きている、という当たり前の真理でありましょう。支え合いは、人の心の原点です。人には誰かを幸せにしようと思う心があります。司馬遼太郎の随筆である「二十一世紀に生きる君たちへ」に次のようにあります。

私は、人という文字を見るとき、しばしば感動する。ななめの画がたがいに支え合って、構成されているのである。そのことでも分かるように、人間は、社会をつくって生きている。社会とは、支え合う仕組みということである。

人の一生のあいだには、さまざまなことがあります。どのような事態に陥ったとしても人を信じ、社会を信じ、自らも誰かのために心を尽くす。そのような認識と態度を熊本県立大学で育んでほしいと思います。学府たる大学は、真理を科学する学問の場であるとともに、学問の恩恵をもって自己実現をはかるための、英知と覚悟を学ぶところです。みなさんには、学問の力を信じ、ひたむきに学び、持てる能力を伸長させる努力を望みます。加えて、支え合いの精神を忘れず、人や社会に奉仕できる真心の備わった人間となることを期待します。

山本有三の翻訳詩「心に太陽を持て」をご存知でしょうか。

心に太陽を持て  
嵐が吹かうが、雪が降らうが  
天には雲、地には争ひが絶えなからうが！  
心に太陽を持て さうすりや何が来ようと平気ぢやないか！

昭和 10 年の古い詩ですが、生き生きとした言葉の力にあふれています。心に太陽が住む人生は、きっと希望あるものでしょう。幸福な人生とはいかなるものか。その答えは、人そ

れぞれが己の人生において向き合う課題ですが、少なくとも私たちには希望が必要です。希望のない人生は、暗く悲しいものとなります。希望ある人生を切り開く鍵が心に太陽を持つことならば、みなさんにも心に太陽を持ってほしいと、私は思っています。

世は、グローバル社会の道半ばにして、予測不能の時代に突入しました。世界各国で国家や社会の矛盾が吹き出し、人々の対立が激化し、心穏やかならぬ事態が頻発しています。人類の知恵が問われ、試されていると感じます。世界中で健全な個人主義が完全には育たず、極端な利己主義が幅をきかせるようになったこの時代、私たち日本人の考え方や価値観にも検証が必要です。わが国は深刻な少子高齢化、地域間格差などの課題に直面し、地方創生をキーワードに新たな変動の時代を迎えています。これまでの平和と安定さえも常なるものではないと、多くの人々が気づきつつあるなか、みなさんは、将来のある若者として、これからの時代を創造していかねばなりません。その意欲を持っていますか。

熊本で英語教師として四年三か月を過ごした夏目漱石は、先例を以て未来を計らんとす、愚もまた甚だし、と書き残しています。同じことを繰り返すだけの前例主義では良き未来は作れないという主張であり、明治時代の言葉ではありますが、色あせぬメッセージとして心に届きます。私たちは、誰もが将来にわたり幸福に生きたいと願っている筈です。将来にわたって幸せに生きるためには、過去を貴ぶ謙虚さと、創意工夫の意欲、そして、何物にも柔軟に適応しようとする気構えが大切です。そのすべてを支えるのが希望ではないでしょうか。絶望と仲良くしては、生きる力が衰亡します。物質的な成熟時代を謳歌する私たちだからこそ、探し求めるべきは人間の行動原理であり、精神的な本質であると考えます。明治維新とも戦後の大転換とも異なる、平成の混沌とした現代に高い志を抱き、みなさんの熊本県立大学において、人類の理想とは何かと、自らに問い続けてください。

本日は、みなさんにとって特別な日でありましょう。私ども熊本県立大学教職員一同は、田嶋徹 熊本県副知事、溝口幸治 熊本県議会副議長をはじめ、多数のご来賓の方々とともに、みなさんの前途に期待をこめて、心からお祝い致します。ご家族の方々、また、熊本県立大学をご支援くださる多くの方々にも深く感謝しながら、ここに新たな学生生活に向かう総勢 557 名に対し、人生の羅針盤として、次の歌を贈ります。

わが胸の奥に宿りし積年の答へを口を開けば希望

すべての人の心のなかに等しく存在する希望を、いま、高らかに掲げ、熊本県立大学の第一歩を踏み出してください。

平成 29 年 4 月 8 日

熊本県立大学 学長 半藤英明